クラス番号	演習テーマ
23	社会経済学の視点から、世界と日本の金融問題を考えよう

PHOTO

教員名

松本　朗

①教員紹介

2005年4月に愛媛大学法文学部より着任しました。まだ、新人です。東京生まれ、東京育ちですが、愛媛に15年ほど住んでいました。四国のリズムが身に付いて、何事にもスピーディーにとはいかないようです。研究の中心は現代経済が抱える貨幣金融問題の解明です。

②研究テーマ

現在日本と世界の経済は、いろいろな意味で大きな転換点に立っていることは誰もが認めるところだと思います。転換点であることを具体的に示す事実を挙げることは、それほど難しいことではありません。例えば、高齢化社会の到来（これは少子化の進行とセットで進んでいます）、デフレや空洞化の進行等々。さらに、日本の外側に目を向ければ、中国経済の台頭、国際金融危機の勃発、さらには地球環境問題に代表される人類の生存に関わる諸問題の発生といった経済システム全般に関わる問題も起こっています。

これらは世界と日本の経済がいままで成長してきた結果です。つまり、我々が生きている経済システムの動きそのものが生み出したものとも言えるでしょう。このように考えてくると、私たちは、今、この経済システムがどの方向へ向かっているのかを冷静に分析し、それにどのように対処するのかを考えることに迫られていると言えます。社会経済学を学ぶこととは、今述べてきた現代経済の課題を解き明かすために、経済システムの動態を分析するツール（経済理論）を学ぶことです。

本ゼミでは、まずに、社会経済学の理論を学ぶことを大きなテーマとし、古典をもしっかりと学ぶ力をつけていきたいと考えています。そうした経済理論の学習にあわせて、現代経済がどのような問題を抱えているのかを学んでいきます。特に、ゼミの後半では、貨幣金融問題を中心に世界と日本の経済の諸課題を経済理論ツールで分析していくことを中心目標とします。

例えば、

＊日本銀行による超金融緩和政策（いわゆる「量的緩和政策」）の功罪

＊アメリカはいつまで経常収支の赤字を続けられるのだろうか

＊国際通貨とは何か、為替相場はなぜ変動するのか、私たちの生活にどんな影響があるのだろうか

など、さまざまな問題の中からテーマを選び出したいと思います。

③ゼミの運営方法

このゼミでは、まずは、経済理論を使って、現代経済の諸現象を論理的に説明する力を養ってほしいとおもいます。こうした力を効率的につけていくために、グループを作ります。そして、それぞれに課題を設定し、グループ内での議論を行ってもらい、プレゼンテーションができるところまでまとめてもらいます。次に、他のグループの前でのプレゼンテーションを行ってもらい、議論を深めていきます。こうしたことを通して、自ら考え、まとめ、表現する能力を養っていこうと思います。さらに、ゼミナール大会や他大学との交流大会にも積極的に参加したいと思います。

ゼミナール生には積極的にゼミナールを造り上げてもらいたいと思っています。コンパや合宿、フィールドワーク、ホームページ作り等々、勉強ばかりではなく、いろいろなことにゼミナール活動を通じて挑戦してみてください。

④使用テキスト

社会経済学に関する基本文献として、以下を挙げておきます。

K. マルクス『資本論』（いくつかの本が出ています。いずれのものでも良いと思います）。

大谷禎之介『社会経済学』桜井書店

角田編『社会経済学入門』桜井書店

山田他編『経済学と現代社会』梓出版社

長島誠一『経済と社会―経済学入門講義―』桜井書店

大槻久志『やさしい日本経済の話』新日本出版社

金融、国際金融に関する基本文献として以下を挙げておきます。

辻信二『銀行業序説』日本経済評論社

吉田暁『決済システムと銀行・中央銀行』日本経済評論社

上川、藤田編『現代国際金融論』有斐閣などを挙げておきます。

⑤前年度のゼミテーマ例・ゼミイベント等

昨年は、ゼミ生の意向を見ながら、かなりスローペースで行いました。今年は、できるだけ積極的にゼミ活動をやっていきたいと考えています。なお、3 年生になりましたら、日本証券学生ゼミナール大会に参加するようにしたいと思っています。

⑥取得するのが望ましい科目

特に社会経済学初級α・β、 財政学、経済変動論、独占理論、貨幣信用論、現代国際経済、国際政治経済学、多国籍企業論などが挙げられます。これ以外でも、マクロ経済学や経済政策関連の科目を習得しておいてほしいと思います。

⑦受講生に望むこと

できるだけ　積極的にゼミ活動に参加してください。無断欠席は厳禁です。すでに述べたようにグループ活動の形でゼミを運営します。集団の中で協調し、責任感をもって行動することも求められることになります。

ゼミ活動を楽しく、充実したものにすれば、大学生活も満足するものになるはずです。ゼミナリステン自らがゼミナールを運営し、ゼミナールを造ってください。